

[17年7月号月報の概要]

1 市場動向の概要

(1) 野菜

5・6月の実績

- ・5月は全般に生育遅れが回復し入荷量は前年並、価格は前年をやや下回った。6月の入荷量は前年をやや上回り価格は前年より大幅に下回って推移した。
- ・価格が特に安かった品目：だいこん、トマト、みず菜、にらなど

7月の見通し

- ・低温の影響で全般に生育が遅れているが、入荷量はほぼ前年並の見込み。ねぎ、きゅうり、なす、ピーマンなどは価格が前年をやや上回る見込み。

(きゅうり)

- ・福島を中心とする東北産の露地ものが市況をリードする。全国的に作付が減少していることから、入荷量は前年をやや下回り、価格も中旬以降持ち直してくる見込み。

(トマト)

- ・青森、福島を中心とする東北産が市況をリードする。東北産は、低温、干ばつの影響で果実肥大が遅れ気味となっているが、作柄は概ね良好である。全体の入荷量は前年並、価格は前年をやや下まわるものの、平年並みまで回復してくる見込み。

(2) 果実

5・6月の実績

- ・5月は全般に低温の影響で生育が遅れ入荷量は前年をやや下回り、価格は前年比約1割増となった。6月上旬の荷量は前年比やや減、価格は前年比やや増、中旬の入荷量は前年並、価格は前年を下回った。
- ・価格が特に高かった品目：かんきつ類、みかん類、りんご類

7月の見通し

- ・すいか類、もも、メロン類が中心に出回る。全般に生育が遅れているが、入荷量はほぼ前年並の見込み。りんご類、マンゴーなどは、価格が前年を上回る見込み。

(すいか類)

- ・山形産(約2割)、千葉産(約2割)、神奈川産、茨城産、長野産が出回る。大玉すいかは山形産と千葉産、小玉すいかは山形産と茨城産が中心。大玉すいかが全体の約9割を占める。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。

(3) 花き

(6月入荷状況)

- ・春先の低温による生育遅れの暖地ものの入荷に加え、やや遅れ気味ながら高冷地ものの入荷が始まり、入荷が必要を上回る状況が続いた。全体的にやや高めの相場展開となった。

(7月見込み)

- ・高冷地主体の入荷となり、順調な入荷が見込まれる。上旬から中旬にかけて新盆の需要が見込まれる。品目別では、菊、スターチスなどは仏花として中旬頃まで強い引きが期待できるものの、下旬は厳しい販売状況となる見込み。

2 輸入青果物の品目別累計速報

- ・17年4月までの入荷実績によると、生鮮野菜では数量ベースで前年比145%、金額ベースで110%。生鮮果実では数量ベースで前年比90%、金額ベースで95%となっている。

3 消費地からのホットニュース、トピックス

- (1) 外食産業の2004年度ランキング(ベスト20位)
- (2) 卸売市場におけるせり・入札割合の推移
- (3) 学校給食・地場農産物使用が拡大(地産地消実態調査)
- (4) 『消費者のベストパートナー』を目指す茨城農業の改革
- (5) 山形県知事が首都圏でトップセールス
- (6) 中元商戦における県産農産物の取扱動向
- (7) 消費者が求める農産物を生産するシステム始動